

## 生徒の学びを深める授業の実践と評価方法の検討

愛知県立杏和高等学校長 織部 匡久

令和4年度より学年進行で実施されている学習指導要領によると、地理歴史科、公民科で育む資質・能力は、次の3つに整理されています。

- (1) 基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得
- (2) 「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成
- (3) 主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成

これに従って、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」という三観点で生徒を評価することになりました。特に「主体的に学習に取り組む態度」については生徒が学びの見通しをもって、粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげるという、主体的な学びの過程の実現に向かっているかどうかという観点から評価することが求められています。したがって、課題提出の有無や挙手の回数などをもって表面的に評価するのではなく、日々の記録やポートフォリオなどを活用して学習内容に対する生徒の関心・意欲・態度などを見取るといった方法で評価する必要があります。加えて、地理歴史科、公民科は科目編成も大きく変わっており、多くの先生方は、指導と評価の適切な在り方についてどのように計画を立てればよいのかと困惑しているのではないのでしょうか。

そこで、本研究では学習指導要領の趣旨に沿った授業の実践と評価方法について研究し、その成果を普及することを目指しました。今年度は、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいて授業改善を目指し、評価については、どの場面で、どの観点を、またどのように評価すればよいかを探ることを重点項目としました。すなわち、授業中の適切な発問から生徒の学習活動が活性化し、理解が深まっているか、その理解度を測る際、評価のための評価ではなく、評価結果を踏まえて授業の方法を見直し、改善の結果、生徒が目標とした力を身に付けているのかをどう評価すればよいのかということを探ったということです。

そして、今回、学習指導要領改訂における三観点の中でも、先述のとおり、課題提出の有無などで評価すればよいと考えられてきた「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法を探ることを研究の重点項目の1つとし、どのような方法で生徒の学習状況や変化を見取ればよいかを研究しました。

もちろん、今回提示するものが絶対解である、正しい、ということではありません。1つの例として、また評価の視点として、各学校での協議の参考となること、また検討のきっかけとなることを期待しています。さらにはそれらの協議を起点にカリキュラムへの理解と授業の充実が図られること、ひいては生徒たちが実社会で活用できる力をしっかりと身に付けていくことを祈念いたします。